

## 学長の業績評価

令和 4 年 3 月 17 日  
広島大学学長選考会議

広島大学学長選考会議は、現学長の業績評価を実施したのでここに公表します。

### ○ 業績評価の方法

業績評価については、「広島大学長の業績評価の実施に関する申合せ(平成 26 年 6 月 10 日学長選考会議決定)」に基づき、国立大学法人評価委員会が行う中期目標・中期計画の年度評価及び毎年度の学長の業務執行状況等を勘案するほか、学長ヒアリング及び監事への意見聴取を実施し、次の事項を柱として、平成 31 年 4 月以降の現学長の業績に係る評価を行いました。

- 大学のビジョンの提示
- 大学改革に向けた取組
- ガバナンス体制の構築
- 対外的取組
- その他（大学運営に係る取組状況等）

※本業績評価に当たっては、学長が「最も重視した取組」についても確認を行った。

### ○ 業績評価の結果

上記について確認し検討した結果、総合的見地から学長のリーダーシップは十分に発揮されており、業績は優れていると認められる。

特に、学長が最も重視した取組である新型コロナウイルス感染症への対応として、令和 2 年 4 月に学長を本部長とする「危機管理対策本部」を設置(毎週 1 回開催)し、「新型コロナウイルス感染症拡大防止のための広島大学の行動指針」を策定し、未曾有の事態においても学生及び教職員が適切に行動できるようにするとともに、全国の大学に先駆けて「応急学生支援金」の創設(令和 2 年度)、新型コロナウイルスワクチンの「大学拠点接種」や歯科医師派遣を行う(令和 3 年度)など、構成員の健康・安全のみならず、地域社会の生活維持と安全確保にも貢献している。

また、コロナ禍においても、令和 2 年 10 月に国立大学初の外国大学キャンパスとなる「アリゾナ州立大学サンダーバードグローバル経営大学院広島大学グローバル校(ASU/Thunderbird-HU Global College)」の学内設置、令和 3 年 4 月には、本学初の海外校として「広島大学森戸国際高等教育学院北京校」の設置、エジプト・ガララ大学との教育協力など、グローバル化の推進に精力的に取り組んでいる。

その他、大学院の再編や国際連携専攻の設置、Town & Gown 構想の推進などにも積極的に取り組んでおり、学長のリーダーシップの下、大学改革に向けた取組が着実に行われている。

なお、各項目における評価結果については、別紙に示す。

**○ 大学のビジョンの周知等について**

大学の長期的・中期的ビジョンは適切に示されており、学長メッセージや部局訪問など様々な機会を通して、ビジョンの方向性や改革の進め方等について構成員に周知を十分行っており、双方向のコミュニケーションにも努めている。

「第4期中期目標期間における広島大学のあるべき姿～『平和を希求する大学』として100年後にも世界で光り輝くために～」を策定し、広島大学が第4期中期目標期間において果たすべき役割を教職員へ示し、進むべき方向性を共有している。また、策定にあたっては、理事、監事、副学長、若手教職員、部局等構成員、経営協議会学外委員の意見等を踏まえ進めている。

また、第4期中期目標・中期計画(案)は、第4期中期目標期間における広島大学のあるべき姿の方向性を踏まえ、策定がなされている。第4期中期目標・中期計画(案)についても、理事、部局長、評価委員会、経営協議会学外委員の意見等を踏まえ策定が進められている。

**○ 大学改革に向けた取組について**

学長のリーダーシップの下、組織改革、教育改革、研究業績向上のための改革、社会貢献・国際化のための改革が実行されており、大学改革に向けた取組が着実に行われている。

**【組織改革】**

大学院(11研究科から4研究科)の再編、国際連携専攻(ジョイント・ディグリー)の設置や、「法曹養成を核とした人文社会科学系の新たな拠点」の整備決定など、組織改革が行われている。

大学院の再編に関しては、研究科の大括り化により、学生が一つの専門領域にとどまることなく周辺領域も学び応用力が培われることを期待する。

**【教育改革】**

スーパーグローバル大学創生支援事業を着実に推進しており、令和2年度の間評価においては、総合評価で「A」とされ、これまでの取組を継続することによって、事業目的を達成することが可能と判断されるとの評価を得ている。

「平和を希求し、チャレンジする国際的教養人の育成」に向け、世界で活躍されているリーダーによる特別講演「世界に羽ばたく。教養の力」を必修科目の一環として実施、博士課程後期の学生が研究に専念できるよう支援を行うなど教育改革に取り組んでいる。

また、広島大学の「知」を通じて「学び」や様々なことに興味をもつきっかけとなることを目的として、「知を鍛える-広大名講義100選-」と題し、授業や研究内容等について広島大学の教員が話をする様子をWebで公開しており、100万回以上のアクセスがあった講義があるなど高い評価を得ている。

#### 【研究業績向上のための改革】

自立型研究拠点及びインキュベーション拠点を拡充するとともに、自然科学研究支援開発センターの組織再編により研究環境の整備を行った。

#### 【社会貢献・国際化のための改革】

Town & Gown 構想は、国立大学の中でも類を見ない優れた取組である。同構想の推進として、令和2年4月に東広島市と共同で「Town & Gown Office 準備室」を設置、令和3年10月には正式に「広島大学 Town & Gown Office」を設置し、本格的な取組を始めている。

Town & Gown 構想の中で、東広島市及び周辺地域における Society5.0 やスマートシティの実現に関する包括的な連携推進に関する協定を締結し、同構想の実現に向けソフト面での基盤を確立した。また、脱炭素社会の実現に向けた「カーボンニュートラル×スマートキャンパス 5.0 宣言」は、高い期待と評価を得ている。

グローバル化の推進に向けては、コロナ禍の中、令和2年10月に国立大学初の外国大学キャンパスとなる「アリゾナ州立大学サンダーバードグローバル経営大学院広島大学グローバル校(ASU/Thunderbird-HU Global College)」の学内設置、令和3年4月には、本学初の海外校として「広島大学森戸国際高等教育学院北京校」の設置、エジプト・ガララ大学との教育協力など、精力的な取組を行っている。

また、国際交流拠点施設として、東広島キャンパスに「広島大学フェニックス国際センター ミライ クリエ」を令和3年10月に開設し、学生や地域住民に利用されている。今後、国内外の研究者、留学生や学生、地域住民などが交流し、イノベーションを創出する地域の「知の拠点」となることを期待する。

#### ○ ガバナンス体制について

運営体制の見直し・改善が図られているとともに、危機管理体制等も整備されるなど、ガバナンス体制は構築されている。

学外理事の複数登用、常勤理事の担当の見直し、副学長体制の強化など、運営体制の見直し・改善が図られている。

若手教員を中心に学長特任補佐に指名しており、教育研究活動の質の向上と大学運営の改善に結びつける取組として評価する。

教員人事の全学一元管理により、外国人等教員、女性教員、年俸制教員及び若手教員の積極的な採用につながっている。

「国立大学法人広島大学における法人経営人材の育成方針」を策定しており、同方針に基づき、法人経営を担える教職員が計画的に育成されていくことを期待する。

「広島大学が躍動し広島の地を活性化させる基金推進会」総会の開催など「広島大学が躍動し広島の地を活性化させる基金」の募金に向けて積極的な活動を展開しているとも

に、ネーミングライツ事業の導入やクラウドファンディングの開設など、資金獲得を増大するための仕組みが構築されている。

危機管理体制については、「危機管理対策本部」の設置など新型コロナウイルス感染症への対応に加え、軍事的安全保障研究対策委員会を設置するなどの強化が図られている。

また、学外の通報窓口の設置や研究倫理教育の改善、研究費等不正使用防止計画の改定などコンプライアンス体制の整備が図られている。

#### ○ 対外的取組について

自然災害や新型コロナウイルス感染症に関する地域への貢献、海外との積極的な交流に取り組んでいる。また、様々な媒体を活用して広島大学の長所・特長を積極的に発信している。

広島大学平成30年7月豪雨災害調査団による最終報告会の開催及び「平成30年7月豪雨災害報告書」の公開や、令和3年度には新型コロナウイルスワクチン大規模接種に係る会場運営及び歯科医師派遣など、地域の復興促進や国・地域における医療に貢献している。

国際交流協定の締結、海外拠点の設置や、世界トップレベルの大学との交流などグローバル化の推進に向けた取組も行っている。

広島大学説明会、オープンキャンパス、地域懇談会、ホームカミングデーのほか、学長定例記者会見やプレスリリース、ホームページ等を通じて、広島大学の活動を積極的に発信している。今後、より効果的な広報活動が行われるよう、広報効果測定等が実施されることを望む。

#### ○ その他（大学運営に係る取組状況等）

新型コロナウイルス感染症という未曾有の事態において、構成員の健康・安全を最優先にしながら、全国の大学に先駆けて様々な活動を実施するなど、迅速かつ適切に対応しており、評価できる。

令和2年4月に学長を本部長とする「危機管理対策本部」を設置(毎週1回開催)し、「新型コロナウイルス感染症拡大防止のための広島大学の行動指針」を策定し、学生及び教職員が適切に行動できるようにするとともに、学内の感染防止に取り組んだ。

学生に対しては、オンライン授業の導入や授業参加に必要なWi-fiルーターの無償貸出など、学修活動に支障が出ないように対応した。また、全国の大学に先駆けて「応急学生支援金」を令和2年度に創設し、新型コロナウイルス感染症の影響で日々の生活に困っている学生を支援するとともに、クラウドファンディング「広朝朝食プロジェクト 50円で学

生に朝食を！」を令和3年度に実施し、学生負担50円で朝食を提供する取組を行い、生活面からのサポートも行った。

全国第一陣の「大学拠点接種」として、令和3年6月21日から東広島市と共同で東広島キャンパスにおいて本学の学生や教職員、学内で日常的に業務を行う者等を対象にワクチン接種を実施するとともに、近畿大学工学部の学生・教職員、東広島市内の私立学校、県立高等学校の教職員等も対象にワクチン接種を実施し、地域社会の生活維持と安全確保に貢献した。また、霞キャンパスにおいても、本学の学生や教職員、学内で日常的に業務を行う者等を対象にワクチン接種を実施し、新型コロナウイルス感染症の拡大防止に貢献した。

また、新型コロナウイルスワクチン接種に歯科医師を派遣することを全国に先駆けて決定し、派遣を行った。